

社会に開かれた教育課程推進事業

地域とのかかわりを大切に、子供の意欲を高める教育課程 ～地域とともに楽しむ共育の日を通して～ 新城市立東陽小学校

1 実践のねらい

新城市に「共育（ともいく）の日」が設けられてから7年になる。「共育（ともいく）」とは、「学校を拠点に学校・家庭・地域が力を合わせて、共に過ごし、共に学び、共に育つ」活動により、「人がつながり、地域が元気になる」ことを目指す新城市の教育理念である。

本校では、「市内一斉共育の日」（6月）だけでなく、学校独自の「夏の共育の日」（7月）、「秋の共育の日」（9月）、「冬の共育の日」（2月）と合わせて年間4回の「共育の日」を設け、地域の方を学校に呼び込み、子供たちとともに学ぶ機会を作っている。

ここでは、「共育の日」の実践により、人々が地域の自然、人、歴史・文化とつながることで、子供たちが学区を「心のふるさと」と思う気持ちを養うことを目指すとともに、地域の人たちに元気を与える一助としたい。

2 実践の内容

(1) 市内一斉「共育の日」

6月の「市内一斉共育の日」には、毎年、新城市在住の方を講師として依頼し、「ふるさと教室」を開催している。今年度は10講座を開き、公民館や地域の史跡など「東陽学区全体を学びの場」と位置付けることで、学校・家庭・地域がつながる手だてとしている。

講座の一つ「大野のまち歴史散歩」では、地元の歴史に詳しい方に講師をお願いし、大野の町並みにある赤線（あかせん：地図に載らない私道）を中心に歩いた。自動車がなかった時代、道幅の狭い赤線の人々が利用していたことを知り、ふだん何げなく通っている地域の道にも歴史が隠されていることに気付くとともに、地域への関心を深める様子が見られた。

その他、「陶芸教室」「パステル和(なごみ)アート教室」「親子料理教室」「キッズダンス教室」「壁画アート教室」「バドミントン教室(晴天時:グラウンドゴルフ)」「木工教室」「鶯笛作り教室」「切り絵教室」の各講座を開いた。

「親子料理教室」では、まずヘルスメイトさんから栄養について学び、その後実習を行い試食をした。それまで、食に関してあまり関心がなかった親子も、栄養バランスを考えたお弁当を作れるようになったと喜んでいった。また、「壁画アート教室」で壁面をペインティングしたり「鶯笛作り教室」で実際に笛を作ったりするなど、自分だけでは取り組めないことが体験できる活動は、子供たちに大好評であった。第1希望の講座以外を体験した親子も、今まで関わったことのないことに挑戦し、活動の楽しさを知るきっかけとなった。

また、講師を務めてくださる地域の方々は、子供たちの喜ぶ顔を見るのがうれしいと、次年度も講師を買って出てください、大変感謝している。

(2) 「夏の共育の日」

7月6日（土）「夏の共育の日」に「親子通学団会」を行い、保護者の方から見た通学路の危険性について意見をいただいた。それを地域の安全ネットワークの方と共有し、子供たちの安全を見守ることに役立てている。多くの大人に見守られて、毎日登下校していることを知った子供たちは、地域の方への感謝の思いを深くした。



「大野のまち歴史散歩」



「親子料理教室」



「壁画アート」

(3) 「秋の共育の日」

9月28日（土）「秋の共育の日」には、保健集会（スマイル集会）と「朗読会」を行った。

○ 保健集会（スマイル集会）

「自分がスキ！」をそだてよう！～親子活動を通して～をテーマに、池田信子先生による心の健康についての講話を行った。池田先生は、子育て支援や情操教育に造詣が深く、様々な大学で講師として活躍されている方である。講話の後には、先生の御指導による親子触れ合い活動を行い、親として、家庭でできる自己肯定感を高める声掛けや取組を学ぶよい機会となった。

子供たちからは、「前よりちょっと自分を好きになった。」「少し自信がもてた。」という感想を聞くことができた。

○ 親子朗読会・大人のための朗読会

昨年まで新城市在住であった朗読家清水陸子さんによる朗読会を行った。清水さんは、単独での朗読会を開催する一方で、劇団員として舞台でも活躍している方である。

第1部「親子朗読会」と題して、親子で群読をしたり、先生に読んでいただいたりと、お話の世界を楽しんだ。「学んだことを学習発表会の劇で生かし、地域に発信したい」という子供の感想が聞かれた。

第2部「大人のための朗読会」では、藤沢周平作「翳雨」を読んでいただき、保護者だけでなく、東陽小読み聞かせグループ「ぐりとぐらの会」のメンバーの方もその美しい声に聞きほれていた。長時間にもかかわらず参加者が集中して聞いており、心豊かな時間となった。



親子で遊ぶの楽しいね



大人も楽しい親子朗読会

(4) 「冬の共育の日」

2月15日（土）の「冬の共育の日」には、「地域の方々に感謝する会」を開催した。交通安全ボランティア、読み聞かせボランティアなどでお世話になっている地域の方々をお招きし、全校児童が感謝の気持ちを伝えようと計画した。手作りの招待状作成と会の司会を5年生が担当した。他の学年は、感謝の気持ちを伝えるためにどんなことをしたらよいかを話し合った。子供たちは、自分たちが楽しむためではなく、招待するお客様に喜んでいただくことが大切だという思いをもった。

当日、「東陽子ども陣太鼓」保存会の方々の御協力をいただき、陣太鼓の演奏を行った。1年生はお客様と一緒に手遊びをしてから、手作りのペンダントをプレゼントし、2年生は大野の町で見つけたことを発表した。3年生は、大豆の〇×クイズ、4年生は地域の黒沢地区に伝わる「黒沢田楽」（国指定重要無形民俗文化財）を披露した。

子供たちが全力で出し物を行うことで、お客様に楽しんでいただくとともに、地域の方への感謝の気持ちが伝わったようで、訪れた方々は、口々に「楽しかったよ。」「今年のお出し物は気合が入ったね。」と言ってくれました。子供たちと地域の方がふるさとへの思いを高めるよい機会とすることができた。



1年生 ペンダントをどうぞ！



東陽子ども陣太鼓の演奏



4年生「黒沢田楽」の舞と演奏

3 実践の成果や課題

年4回の「共育の日」の活動を通して、子供たちは東陽小学区に住む多くの方々と直接触れ合うことができた。そうした人との関わりから学区のよさを見つけ、学区に愛着を感じる事ができた。これからも地域の一員として、地域の方々とつながり、ともに活動することで、地域を元気にしたいという気持ちを更に高めていきたい。